

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《福田・丸尾・西泊地区(同中学校区)》

第1回 開催報告



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。



日時 令和3年12月18日(土) 14:00~16:00

場所 西工場 4階大会議室

参加者 地域の皆さん 22人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても、暮らしやすいまちであり続けるために、福田・丸尾・西泊地区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

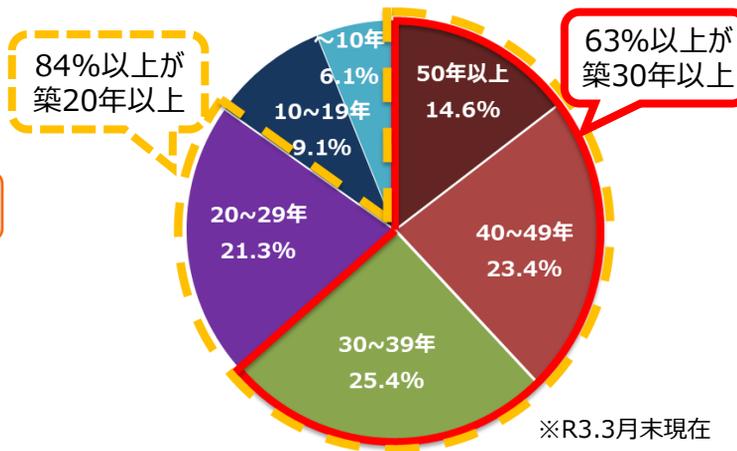
※手指消毒、換気、マスク等の新型コロナウイルス感染対策を実施のうえ開催しました。

1 いま起きている“変化”と状況

公共施設が古くなってきています

- ・市の公共施設(建物)の6割以上が建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期を一齐に迎えます。

<施設の築年数と施設の量(床面積)の割合>



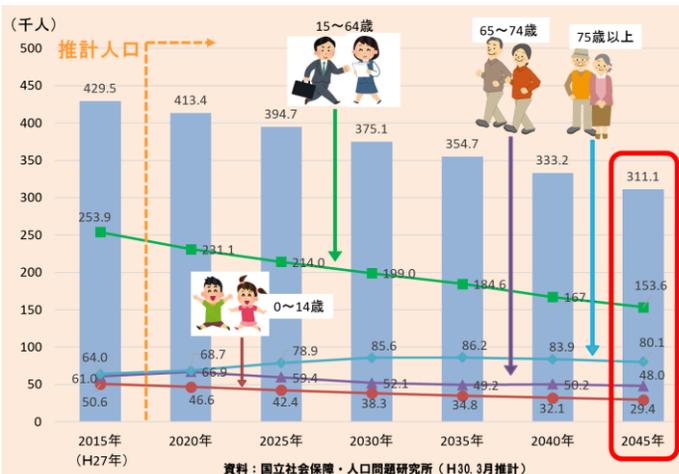
人口減少・少子高齢化が進んでいます

- ・長崎市の人口は、2045年には約31万人にまで減少すると予測され、それに伴い施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少することが予想**されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増えることが予想**されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られて**しまいます。

私たちのまわりで起きている変化



<人口の将来予想>



- ・高度成長の時代を経て、私たちの暮らしは豊かになってきました。しかし一方で、近年では人口減少や少子化、高齢化、ひとり暮らし世帯の増加といった問題や大雨による地滑り、台風、津波などの自然災害の増加による、防災に対する意識の変化など、私たちの周りでは様々な変化が起きています。

新型コロナウイルスの流行による変化も

●コロナ禍での変化

- ・コンビニで住民票等の取得
- ・スマートフォンなどを使用した電子納税
- ・テレワークの普及
- ・オンライン会議の活用 etc....



コロナの終息後も、新しい生活様式が当たり前



- ・「新型コロナウイルス」が世界中で流行し、スマートフォンを利用したサービスの提供やテレワーク、オンライン会議の普及、「新しい生活様式」など働き方や生活の新たな常識「ニューノーマル」時代へと変化しています。

2 長崎市の現状

人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
そのまま



少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる



3 コロナ禍を契機として

コロナ禍を契機として.....

- ・行政サービスの提供方法の変化
- ・公共施設の在り方を見直す必要性

コロナ禍を契機として、スマートフォンを活用し非接触での行政サービスの提供方法へ変化がみられるようになっており、このような変化のなか、これからも暮らしやすさを維持していくためには、社会のいろいろな「しくみ」を見直していく必要があります。

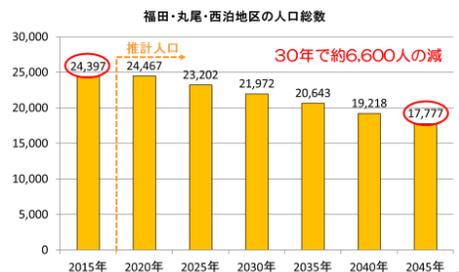
その中の一つとして、公共施設の使い方の見直しに取り組んでいくことも必要と考えます。



4 福田・丸尾・西泊地区の現状

1 福田・丸尾・西泊地区の将来推計人口

人口は30年で25%以上減



2015年は人口約2万4千人でしたが、30年後の2045年には約1万8千人となり、6千人以上人口が減ると推計されています。

福田・丸尾・西泊地区でも、人口減少や少子高齢化が進むと予測されています。

グループでの話し合い

「区内にある施設の課題等」「市の考える施設の基本的な配置に対する意見」について考えよう

- 福田・丸尾・西泊地区の将来を考えるうえで、区内にある施設の課題などは何ですか。
- 市の考える施設の基本的な配置に対して、どう思いますか。思い浮かんだことを書き出してもらい、班で話し合いました。

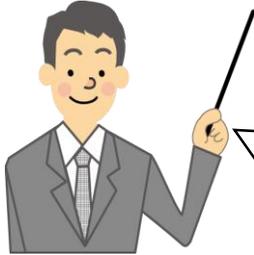


5 公共施設のあり方についての考え方

また、どのように公共施設を考えていくかについても、お話ししました。

まず大切なことは…

施設を見直すことは、行政サービスを無くすことではありません。



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を考えるということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

＜工夫した使い方の例＞

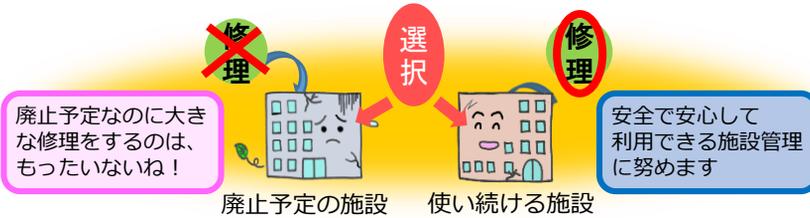


建物は減っても… サービスは残る

考え方

考え方には、大きく2つの手法があります。

考え方1 同じような使われ方をしている施設では、施設を選ぶ



使い続ける施設と将来廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をします。

考え方2 使われていないスペースがある施設では、施設をまとめる



建物が減っても工夫することで活動は続けられ、新たな交流も生まれます。

公共施設を考える時の視点

次の7つの視点で施設を考えていきます。

建築年数や修理の状況

地震に強い建物か

よく利用されているか

使っていない部屋はないか

同じような使われかたをしている建物がないか

修理などにお金が掛かりすぎていないか

バリアフリーに対応しているか

グループでの話し合いの様子



6 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方

スポーツ施設



スポーツ施設は、生涯にわたってスポーツに関わることで、健康で豊かな生活を送ることができ、また、競技力の向上を図ることで、地元選手が活躍できるよう、その活動の場として、重要な役割を担っています。

地区施設の利用形態



- 地域の皆さんの身近なところには、気軽にスポーツに親しむことができる場として、公園機能の一つとして配置されているグラウンドを継続して配置する考えです。また、街区公園等の広場、ふれあいセンター等の軽スポーツ室の活用、学校の体育館などの開放を進めています。

複数地区施設の利用形態



- 地域における生涯スポーツの推進及び競技スポーツの競技力向上を図るため、市内の中央、東部、南部、北部の4つの地域内において、各地区からの交通の便が良い場所(地域拠点又は交通結節点)に配置する考えです。

また、将来は人口減少に伴い利用者の減少が見込まれるため、施設の利用状況などを踏まえ、人口減少に伴う利用者の減少を推計し、将来の利用人口に応じて施設の集約化を図り、施設規模の見直しを行います。



市民神の島プール

コミュニティ活動施設



地域の皆さんが身近にふれあい、さまざまな活動を行っていく場所として、気軽に立ち寄ることができる地域コミュニティ活動の場はこれからも必要です。今後は、ふれあいセンターや地区公民館などに加え、特定の年齢層を利用対象とした老人憩の家や児童館・児童センターなどの施設も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。



木鉢地区ふれあいセンター



福田地区公民館



西公民館・老人憩の家ひまわり荘

中学校区に配置する施設



- 多数の参加が見込まれる活動や行事などのため、小学校区の施設よりも広いスペースや調理室などの特定の設備が必要な施設については、小学校区に配置する施設を兼ねる形で、概ね中学校区への配置を考えています。

小学校区に配置する施設



- 地域の皆さんが最も身近な場所で、地域の話合いなど、さまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。

中学校区

小学校区

- 集会室
- 和室
- 給湯室

…等



- 集会室
 - 会議室
 - 和室
 - 調理室
 - 事務室兼図書室
- …等

学校施設

学校の適正配置については、教育委員会が地域と協議させていただいています。



福田小学校



小榊小学校



飽浦小学校



朝日小学校



福田中学校



西泊中学校



丸尾中学校

放課後 児童クラブ

子どもたちの放課後等における安全・安心な場所の確保を図るため、基本的に小学校区ごとの利用見込みに応じて配置します。



マリンキッズ



海の子キッズ



福田キッズ



小榊児童クラブ



なかよしハウス



あさひっクラブ

市営住宅



今後、人口や世帯数が減少し、市営住宅の需要は減ると予想されます。そのため、民間住宅市場で最低居住水準を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の住居困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の最低限の安全な暮らしを守る役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。



小浦住宅



福田本町住宅



大浜住宅



木鉢住宅

ごみ処理施設



ごみ焼却施設は生活を営むうえで欠くことができない施設であり、災害などの不測の事態も見据えたリスク分散と、地形や道路状況を踏まえた収集・運搬効率を考慮のうえ、今後も市内に2か所(西工場・東工場)配置し、西工場は現在の施設を適正に管理いたします。



西工場

6 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

消防施設

道路状況や隣接する消防施設の位置などを考慮して、全市的な観点で配置します。



飽の浦出張所

公園

「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」など、多様なニーズに対応した公園づくりを推進します。



みなと坂船の公園

地域センター

都市マスタープランの生活地区、地域拠点及び都心部に1か所ずつ配置します。



小瀬地域センター



福田地域センター



★グループでの話し合いで出された主な意見

グループで話し合っていた内容について、班ごとに発表していただきました。

- ・大浜地区から避難所である福田小中学校は遠く、避難する道も危険がある。 **1班**
- ・福田地域センター（福田地区公民館）の移転の際には、避難所としても使えるようにしてほしい。移転候補地はいくつかあると思うが、簡単には決まらないと思う。
- ・子育て支援センターなどの子どもの遊ぶ場所がないので、どこかに設置してほしい。

- ・特に高齢者の方は、大浜地区から福田小中学校へ避難することは困難であるため、近くのコアマンション辺りで一時避難ができないか。 **2班**
- ・福田地域センターはフレスポ福田に空きテナントがあるのでそちらに移転し、避難所としても利用すれば良いのではないかと。

- ・子どもの数が減っているが、飽浦小学校は残してほしい。 **3班**
- ・西公民館は駐車場が狭く、駐車できる台数が少ないので、駐車場を整備してほしい。
- ・高齢化が進んでいることから、ファミリー層向けの集合住宅を造ったらどうか。

- ・活用されていない旧小瀬小学校の跡地を整備し、ボール遊びができるようになれば、小学校の移転により活気がなくなった小瀬戸地区に活気が戻るのではないかと。 **4班**
- ・木鉢地区ふれあいセンターは駐車場が少なく、階段も急でバリアフリーではない。

- ・地域の中に公共施設がどのくらいあるのかわからない。公共施設について考える前に、まずは公共施設のPRをしてほしい。 **5班**
- ・公共施設の再編の際には、公共交通など交通の便の良いところに配置してほしい。

【講評】（アドバイザー：東京都立大学 都市環境学部 讃岐亮 先生）

- 公共施設に関する市民対話ですが、まちづくりの話もあり、公共施設のみに縛られずに議論できたことはとても良いと感じました。
- 避難や防災の観点から、マンションのロビーを一時避難場所にできないかというアイデアがありましたが、公共サービスと地域にある資産を組み合わせることで考えて頂いているということであり、素晴らしいと思います。この市民対話は、そんな地域資産を教えていただきたいという側面もあり、次回も地域住民ならではの意見をいただきたいと思っています。



次回の対話では・・・

長崎市から個別の公共施設の配置の考え方をお示したうえで、その考え方に対して、地域にお住まいだからこその実情などを踏まえた、ご意見やアイデア等をお聞かせいただきたいと思っております。

※お知らせ 新型コロナウイルスの感染拡大により、2/5（土）に開催を予定していた第2回市民対話は延期します。開催日時は改めてご案内いたします。

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）